

平成30年度

教育委員会活動の点検・評価報告書

平成30年10月

鹿児島市教育委員会

目 次

| | | |
|-----|-----------------------|------|
| I | はじめに | |
| 1 | 制度の趣旨 | P 1 |
| 2 | 点検・評価の対象 | P 1 |
| 3 | 実施フロー | P 2 |
| 4 | 教育行政評価会議（学識経験者の知見の活用） | P 2 |
| II | 点検・評価結果 | |
| 1 | 評価結果一覧 | P 3 |
| 2 | 教育委員会による最終評価 | |
| (1) | 総評 | P 4 |
| (2) | 個別事業における提言 | P 4 |
| 3 | 教育行政評価会議の意見（総評） | P 6 |
| 4 | 個別の事務事業評価シート（見方・概要） | P 8 |
| 5 | 教育行政評価会議の個別事業に対する主な意見 | P 22 |
| III | 参考資料 | |
| • | 教育委員会活動の自己点検・評価実施要綱 | P 28 |
| • | 教育行政評価会議設置要領 | P 29 |

I はじめに

1 制度の趣旨

教育委員会は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていくという趣旨から、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、毎年、その教育行政事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされています。

本市教育委員会では、法の趣旨に則り、平成20年度から所管する事務について「教育委員会活動の点検・評価」（以下「点検・評価」という。）を実施しています。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

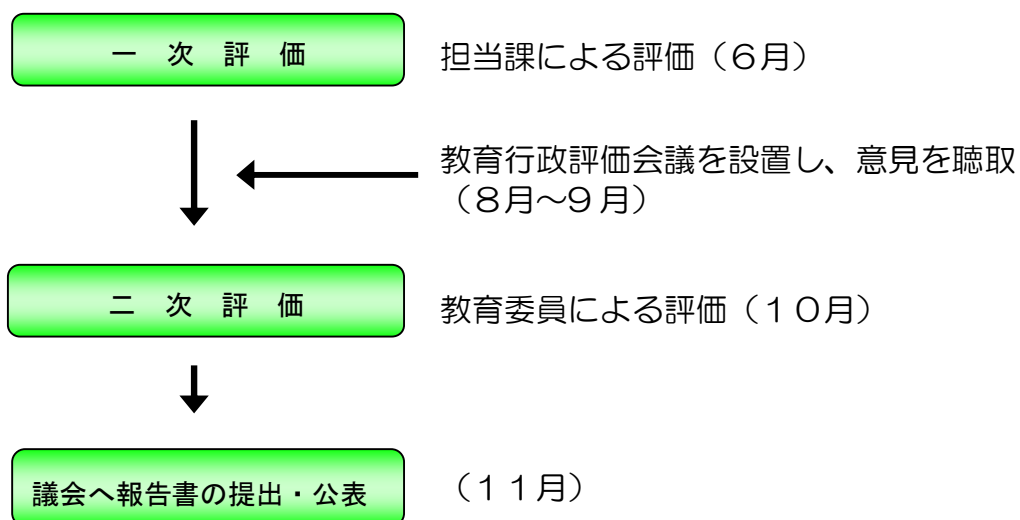
第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象

今年度は、教育振興基本計画に掲げる本市教育施策の5つの方向性のうち「道徳心や社会性を養い、心身ともにたくましい子どもを育成する」に関連する37の事務事業を対象として点検・評価を実施しました。対象事業は3ページのとおりです。

3 実施フロー



4 教育行政評価会議（学識経験者の知見の活用）

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づき「教育行政評価会議」を設置し、5人の委員からそれぞれ評価の対象としたい事業を選出してもらい、20事業について、意見聴取を行いました。

〔委員名簿〕

| 氏名 | 所属等 |
|-------|----------------|
| 武隈 晃 | 鹿児島大学副学長 |
| 岩橋 恵子 | 志学館大学法学部教授 |
| 常深 透 | 市中学校長会（長田中学校長） |
| 亀井 愛子 | 社会教育委員 |
| 南 香織 | 市PTA連合会会長 |

II 点検・評価結果

1 評価結果一覧

| 方向性 | 施策 No. | 事業名 | 評価結果 |
|-----|--------|-------------------------------|------|
| | | 道徳心や社会性を養い、心身ともにたくましい子どもを育成する | |
| | 1 | 道徳教育の充実 | |
| | 1 | 道徳教育の充実 | A |
| | 2 | 「こころの言の葉」コンクール事業 | A |
| | 3 | 「郷土の偉人に学ぶ鹿児島心」推進事業 | A |
| | 4 | 音楽等文化活動に対する助成 | A |
| | 2 | 人権教育の充実 | |
| | 5 | 人権教育推進事業 | A |
| | 6 | 人権教育の推進事業 | A |
| | 3 | 生徒指導の充実 | |
| | 7 | 生徒指導の充実 | A |
| | 8 | 不登校児童生徒支援事業 | A |
| | 9 | 臨床心理相談員活用事業 | A |
| | 10 | スクールソーシャルワーカー活用事業 | A |
| | 11 | 心のパートナー派遣事業 | A |
| | 12 | いじめ問題等調査委員会 | A |
| | 4 | 教育相談の充実 | |
| | 13 | 教育相談の充実 | A |
| | 5 | 学校体育の充実 | |
| | 14 | 学校体育活動の充実 | A |
| | 15 | 中・高等学校運動部活動活性化事業 | A |
| | 16 | 学校プール施設等整備事業 | A |
| | 17 | 保健体育等推進助成事業 | A |
| | 6 | 健康教育の充実 | |
| | 18 | 学校保健活動の充実 | A |
| | 19 | 性に関する指導推進事業 | A |
| | 20 | 学校職員安全衛生管理事業 | A |
| | 21 | 学校職員ストレスチェック事業 | A |
| | 7 | 食育の推進 | |
| | 22 | 学校給食活動の充実 | A |
| | 8 | 青少年教育と体験活動の充実 | |
| | 23 | 子ども会育成事業 | A |
| | 24 | 青少年問題協議会 | A |
| | 25 | 青年教養セミナーの開催 | A |
| | 26 | 青少年教育指導者の養成 | A |
| | 27 | 新成人のつどい | A |
| | 28 | 青年会館事業 | A |
| | 29 | 青少年ふれあい交流・体験活動促進事業 | A |
| | 30 | 青少年ボランティア活動推進事業 | A |
| | 31 | 子どもの体験活動支援情報誌作成事業 | A |
| | 32 | 心豊かで元気あふれる「さつまっ子」育成市民会議 | A |
| | 33 | 少年自然の家主催事業 | A |
| | 34 | わくわくアドベンチャー事業 | A |
| | 9 | 子ども読書活動の推進 | |
| | 35 | 図書館子どもの読書活動支援事業 | A |
| | 36 | ブックスタート事業 | A |
| | 37 | 学校図書館運営事業 | A |

評価区分

- A 継続 : 引き続き改善・工夫に努めながら継続する
- B 見直し : 事業の実施方法等を見直す必要がある
- C 統合 : 事業の統合を検討すべき
- D 縮小 : 事業規模を縮小する必要がある
- E 休止 : 制度は必要だが、事業を休止すべき
- F 廃止 : 制度自体を廃止すべき
- G 終了 : 事業の終期に合わせて、終了すべき

2 教育委員会による最終評価

(1) 総評

今回の点検・評価は、事務事業評価を実施し、37事業について、事務局による一次評価、外部委員による教育行政評価会議での意見聴取を経て、教育委員会による最終評価の流れで評価した。

全ての事業が「継続」という評価であるが、従来どおりの内容で実施するのではなく、今後もその事業の目的が達せられるよう積極的な改善・工夫に努めてほしい。

また、活動指標や成果指標の目標値については、各事業の成果を客観的に把握できるよう事業の目的を踏まえた適切な設定に、更に努める必要がある。

(2) 個別事業における提言

ア. 人権教育の推進事業について

人権教育資料については、「性的少数者」やインターネットによる人権問題など、今後とも常に新しいものを盛り込んでいくことを考えて、時代に合ったものを作ってもらいたい。



イ. 不登校児童生徒支援事業について

適応指導教室は、気軽に相談できる駆け込み寺的なものであるが、その存在を知らない方もいると思われることから、更なる周知に努めるべきである。

ウ. 臨床心理相談員活用事業について

児童生徒の心の状態によって、指導のレベルも異なることから、今後とも、積極的に心の状態を把握し、適正な指導に努めていただきたい。

エ. 子ども会育成事業について

子ども会は、異年齢交流や地域行事参加など、鹿児島県の教育にとっての強みでもある。歴史のある事業でもあり、活動の活性化に努めながら続けていくことが非常に大事な事業である。



オ. 図書館子どもの読書活動支援事業

読み聞かせ等の参加者が減少してきていることから、新たな取り組みや、更なる周知・広報に努めるべきである。



3 教育行政評価会議の意見（総評）

教育行政評価会議は、今年度の評価対象37事業の中から20事業を選定し、事務局の説明を受けた上で質疑を行い、意見をまとめた。

各事業に対する意見の詳細は次ページ以降に記載しているが、複数の事業に共通する意見を次の5項目にまとめた。これらのことは、今回の評価対象事業のみならず、他の事業においても共通する課題であると考えられることから、今後の事業執行に際しては、これらのことに留意して取り組むことが望まれる。

(1) 今日の重要課題への対応について

「性的少数者」や「障害」、インターネットによる人権問題などに代表される今日の重要課題については、より積極的かつ早急に対応する必要がある。また、研修会で学んだことをいかに実践できるかが大事であることから、学校生活の中の日常的な実践につながるよう努められたい。

(2) 鹿児島の特徴ある教育について

「子ども会」育成事業などの子どもの育成に関わる事業は、地域全体で子どもを育てていくという鹿児島の特徴ある教育の一つであり、地域社会にも積極的にその良さを広報するとともに、指導者研修のより一層の充実を図り、活動の活性化に努められたい。

(3) 各事業内容等の発信について

各事業の良さや研修会の内容を積極的に発信し、保護者や学校、地域に十分に浸透していくような取組になるよう努められたい。

(4) 関係団体等との連携について

各事業の実施にあたっては、PTAや関係機関・団体、また必要に応じて専門機関等との積極的な連携・協働を図り、より事業効果が上がるよう努められたい。

(5) リーフレット等の有効活用について

各事業で作成したリーフレット等については、学級活動やPTAの集まりで補足説明を行ってから配布するなど、より多くの児童生徒、保護者、教職員に知ってもらうための工夫に努め、有効活用を図られたい。

(6) 合理的な人的配置について

臨床心理相談員活用事業などの相談員等を配置する事業の実施にあたっては子どもたちの実態や学校の状況に応じて、より合理的な配置に努められたい。

4 個別の事務事業評価シート（見方）

| No. | 事務事業名 | 事業実施課 | 事業区分 | 事業概要 | 財源 | 概算コスト(単位:千円) | | | |
|-----|---------|-------|------|--|----|---|---|---|---|
| | | | | | | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
| 1 | 道徳教育の充実 | 学校教育課 | その他 | ○事業開始年度 平成15年度 【概要】道徳の授業を通して、その意義の理解を図りながら指導法の工夫・改善を図るとともに、学校や家庭、地域の方々の協力による開かれた道徳教育の充実に努める。 【対象者】幼稚園、小・中・高等学校の道徳主任等、開催校区の保護者及び地域住民 【具体的な活動内容】市道徳教育研究大会 | 市単 | [概算コスト] 2,345 (内訳) ・決算額 0 ・人件費 2,345 (0.30人) | [概算コスト] 2,322 (内訳) ・決算額 0 ・人件費 2,322 (0.30人) | [概算コスト] 2,305 (内訳) ・決算額 0 ・人件費 2,305 (0.30人) | [概算コスト] 2,336 (内訳) ・予算額 0 ・人件費 2,336 (0.30人) |

A~Kの説明

A

評価対象となる事務事業名が記入されています。

B

事業を実施する課名が記入されています。

C

事業区分が記入されています。

- 【市民参画】
 - ・市民参画を図るもの
- 【相談】
 - ・市民からの相談に対応するもの
- 【許認可・検査】
 - ・許認可や検査などを実施するもの
- 【監視・規制】
 - ・監視、規制や指導などを実施するもの
- 【助成・育成】
 - ・市民の福祉向上や市の活性化のために補助金等の交付などを通して助成・育成等を図るもの
- 【イベント】
 - ・イベントの実施や実施を支援するもの
- 【啓発・広報】
 - ・広く市民等に情報を伝達し、啓発や広報を図るもの
- 【調査・研究】
 - ・事業の実施等に向けて調査・研究するもの
- 【社会基盤・都市施設基盤】
 - ・インフラの整備を図るもの
- 【施設維持・管理】
 - ・インフラの維持を図るもの
- 【市民サービス】
 - ・市民の利便性を図るもの
- 【内部管理】
 - ・行政内部の管理業務を行うもの
- 【その他】
 - ・上記のいずれにも該当しないもの

D

事業開始年度や概要など、事業の主な内容が記入されています。

E

財源について、国・県補助、市単、特会(国・県補助)、特会が記入されています。
 ※「国・県補助」は、国や県から補助があることを表し、「市単」は、国や県から補助がないことを表しています。また、「特会」は一般会計以外(特別会計や企業会計)であることを表しています。

F

直接経費に人件費を加えた総事業費が記入されています。
 ※30年度の数値は、年度当初における予定数値です。
 ※人件費はその年度の平均給与額を基に計算しています。

| 主な活動指標 | | | | | 主な成果指標 | | | | | 一次評価結果 | 二次評価結果 | 評価理由 |
|------------------|-----------------|-----------------|-----------------|------------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|--------------|--------|--------|---|
| 指標名 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 指標名 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | | | |
| 研究大会回数 (単位:回) | [目標値] 1 | [目標値] 1 | [目標値] 1 | [目標値] 1 | 参加者数 (単位:人) | [目標値] 180 | [目標値] 180 | [目標値] 180 | [目標値] 200 | A | A | 継続 (理由) 道徳教育の意義や道徳の教科化に伴う指導法の工夫・改善について、日々研鑽し、教員の指導力の向上とともに保護者や地域への道徳教育への理解と協力を推進していくため。 |
| | [実績値] 1 | [実績値] 1 | [実績値] 1 | | | [実績値] 216 | [実績値] 214 | [実績値] 214 | | | | |
| | <達成率> 100.0% | <達成率> 100.0% | <達成率> 100.0% | | | <達成率> 120.0% | <達成率> 118.9% | <達成率> 118.9% | | | | |

G

主な活動指標と、その目標値・実績値が記入されています。
 ※活動指標とは、事業を実際に執行した際の活動実績を表した数値です。
 ※30年度の数値は、年度当初における予定数値です。

H

主な成果指標と、その目標値・実績値が記入されています。
 ※成果指標とは、行政活動を実行することにより得られた成果を明確にした数値です。
 ※30年度の数値は、年度当初における予定数値です。

I

J

事業実施課による一次評価並びに教育委員会による二次評価結果が記入されています。

- 【A 継続】
・引き続き改善・工夫に努めながら継続する
- 【B 見直し】
・事業の実施方法等を見直す必要がある
- 【C 統合】
・事業の統合を検討すべき
- 【D 縮小】
・事業規模を縮小する必要がある
- 【E 休止】
・制度は必要だが、事業を休止すべき
- 【F 廃止】
・制度自体を廃止すべき
- 【G 終了】
・事業の終期に合わせて、終了すべき

K

評価結果の理由が記入されています。

4 個別の事務事業評価シート（概要）

| No. | 事務事業名 | 事業実施課 | 事業区分 | 事業概要 | 財源 | 概算コスト(単位:千円) | | | |
|-----|---------------------|-------|-------|--|----|---|---|---|--|
| | | | | | | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
| 1 | 道徳教育の充実 | 学校教育課 | その他 | ○事業開始年度 平成15年度 【概要】道徳の授業を通して、その意義の理解を図りながら指導法の工夫・改善を図るとともに、学校や家庭、地域の方々の協力による開かれた道徳教育の充実に努める。 【対象者】幼稚園、小・中・高等学校の道徳主任等、開催校区の保護者及び地域住民 【具体的な活動内容】市道徳教育研究会 | 市単 | [概算コスト] 2,345 (内訳) ・決算額 0 ・人件費 2,345 (0.30人) | [概算コスト] 2,322 (内訳) ・決算額 0 ・人件費 2,322 (0.30人) | [概算コスト] 2,305 (内訳) ・決算額 0 ・人件費 2,305 (0.30人) | [概算コスト] 2,336 (内訳) ・予算額 0 ・人件費 2,336 (0.30人) |
| 2 | 「こころの言葉」コンクール事業 | 学校教育課 | イベント | ○事業開始年度 平成15年度 【概要】中学生とその保護者が、相手の存在の意義と自分の在り方・生き方を考える契機とするため、葉書1枚程度のメッセージを作成する。 【対象者】本市内の中学生とその保護者 【具体的な活動内容】 ・手紙文コンクールの実施 ・「こころの言葉」作品集の作成、配布 | 市単 | [概算コスト] 2,189 (内訳) ・決算額 1,407 ・人件費 782 (0.10人) | [概算コスト] 2,173 (内訳) ・決算額 1,399 ・人件費 774 (0.10人) | [概算コスト] 2,135 (内訳) ・決算額 1,367 ・人件費 768 (0.10人) | [概算コスト] 2,154 (内訳) ・予算額 1,375 ・人件費 779 (0.10人) |
| 3 | 「郷土の偉人に学ぶ鹿児島の心」推進事業 | 学校教育課 | イベント | ○事業開始年度 平成21年度 【概要】郷土の偉人を題材にしたマンガ教材を使って、その業績を学び、次代を担う児童生徒に伝承するとともに、郷土を愛する心を育む。 【対象者】鹿児島市内の全小学5年生 【具体的な活動内容】 ・道徳や社会の授業で活用 ・鶴岡市との中学生派遣交流で活用 | 市単 | [概算コスト] 1,381 (内訳) ・決算額 1,225 ・人件費 156 (0.02人) | [概算コスト] 1,289 (内訳) ・決算額 1,134 ・人件費 155 (0.02人) | [概算コスト] 1,288 (内訳) ・決算額 1,134 ・人件費 154 (0.02人) | [概算コスト] 1,370 (内訳) ・予算額 1,214 ・人件費 156 (0.02人) |
| 4 | 音楽等文化活動に対する助成事業 | 学校教育課 | 助成・育成 | ○事業開始年度 昭和62年度 【概要】県代表として九州大会・全国大会に出場する市立小・中・高等学校の吹奏楽、合唱、書道、美術等の文化活動の団体に対して、必要経費の一部を助成する。 【対象者】市立小・中・高等学校の児童・生徒 【具体的な活動内容】補助金の交付 | 市単 | [概算コスト] 9,643 (内訳) ・決算額 8,470 ・人件費 1,173 (0.15人) | [概算コスト] 11,468 (内訳) ・決算額 10,307 ・人件費 1,161 (0.15人) | [概算コスト] 9,123 (内訳) ・決算額 7,971 ・人件費 1,152 (0.15人) | [概算コスト] 10,530 (内訳) ・予算額 9,362 ・人件費 1,168 (0.15人) |
| 5 | 人権教育推進事業 | 生涯学習課 | 助成・育成 | ○事業開始年度 平成9年度 【概要】人権問題に関する諸課題についての正しい認識と理解を深め、相互友爱の望ましい市民性の育成を図る。 【対象者】市民 【具体的な活動内容】 ・人権問題啓発資料「みんなの幸せを求めて」の発行及び配布 ・人権学習・啓発用ビデオや図書の購入及び活用の推進 ・「人権啓発講演会」の実施(年1回) ・研修会や学習会の開催(地域別人権問題研修会(年13回)ほか) | 市単 | [概算コスト] 3,543 (内訳) ・決算額 2,136 ・人件費 1,407 (0.18人) | [概算コスト] 3,320 (内訳) ・決算額 1,927 ・人件費 1,393 (0.18人) | [概算コスト] 3,294 (内訳) ・決算額 1,911 ・人件費 1,383 (0.18人) | [概算コスト] 3,988 (内訳) ・予算額 2,587 ・人件費 1,401 (0.18人) |
| 6 | 人権教育の推進事業 | 学校教育課 | 助成・育成 | ○事業開始年度 昭和52年度 【概要】あらゆる人権問題について正しい認識と理解を深め、人権尊重の精神に徹し、差別や偏見をなくしていくこととする意欲と実践力をもった人間の育成に努めるよう各学校における人権教育の充実に努めている。 【対象者】教育委員会職員、教職員、児童生徒、保護者 【具体的な活動内容】人権教育担当者の開催、人権教育研修会の開催、人権教育資料の作成・配布、人権教育啓発用DVD、VTR等の購入、人権教育研修会・研究会への出席 | 市単 | [概算コスト] 2,619 (内訳) ・決算額 274 ・人件費 2,345 (0.30人) | [概算コスト] 2,605 (内訳) ・決算額 283 ・人件費 2,322 (0.30人) | [概算コスト] 2,545 (内訳) ・決算額 240 ・人件費 2,305 (0.30人) | [概算コスト] 2,619 (内訳) ・予算額 283 ・人件費 2,336 (0.30人) |

【評価区分】

- A: 継続 引き続き改善・工夫に努めながら継続する
- B: 見直し 事業の実施方法等を見直す必要がある
- C: 統合 事業の統合を検討すべき
- D: 縮小 事業規模を縮小する必要がある

- E: 休止 制度は必要だが、事業を休止すべき
- F: 廃止 制度自体を廃止すべき
- G: 終了 事業の終りに合わせて、終了すべき

| 主な活動指標 | | | | | 主な成果指標 | | | | | 一次評価結果 | 二次評価結果 | 評価理由 |
|--|---|---|---|--|---|---|---|---|---|--------|--------|---|
| 指標名 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 指標名 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | | | |
| 研究大会回数 (単位:回) | [目標値] 1 [実績値] 1 <達成率> 100.0% | [目標値] 1 [実績値] 1 <達成率> 100.0% | [目標値] 1 [実績値] 1 <達成率> 100.0% | [目標値] 1 [実績値] 1 <達成率> 100.0% | 参加者数 (単位:人) | [目標値] 180 [実績値] 216 <達成率> 120.0% | [目標値] 180 [実績値] 214 <達成率> 118.9% | [目標値] 180 [実績値] 214 <達成率> 118.9% | [目標値] 200 [実績値] 214 <達成率> 107.0% | A | A | 継続 (理由) 道徳教育の意義や道徳の教科化に伴う指導法の工夫・改善について、日々研鑽し、教員の指導力の向上とともに保護者や地域への道徳教育への理解と協力を推進していくため。 |
| 募集回数 (単位:回) | [目標値] 1 [実績値] 1 <達成率> 100.0% | [目標値] 1 [実績値] 1 <達成率> 100.0% | [目標値] 1 [実績値] 1 <達成率> 100.0% | [目標値] 1 [実績値] 1 <達成率> 100.0% | 応募作品数 (単位:件) | [目標値] 16,000 [実績値] 16,802 <達成率> 105.0% | [目標値] 16,000 [実績値] 16,943 <達成率> 105.9% | [目標値] 17,000 [実績値] 17,335 <達成率> 102.0% | [目標値] 17,000 [実績値] 17,335 <達成率> 102.0% | A | A | 継続 (理由) 次世代を担う子供たちに豊かな心を育むことは必要であり、市民からも好評を博している事業であるため。 |
| 市内の全 小学5年生 の人数に 対する配 布実数 (単位:冊) | [目標値] 5,236 [実績値] 5,236 <達成率> 100.0% | [目標値] 5,215 [実績値] 5,215 <達成率> 100.0% | [目標値] 5,599 [実績値] 5,599 <達成率> 100.0% | [目標値] 5,687 [実績値] 5,599 <達成率> 98.5% | マンガ教材 を授業等で 活用した学 校数 (単位:校) | [目標値] 78 [実績値] 78 <達成率> 100.0% | [目標値] 78 [実績値] 78 <達成率> 100.0% | [目標値] 78 [実績値] 78 <達成率> 100.0% | [目標値] 78 [実績値] 78 <達成率> 100.0% | A | A | 継続 (理由) 次世代を担う子供たちに、郷土を愛する心を育むことは必要であり、市民からも好評を博している事業であるため。 |
| 県代表として参加した 助成団体数 (単位:件) | [目標値] 57 [実績値] 47 <達成率> 82.5% | [目標値] 54 [実績値] 54 <達成率> 100.0% | [目標値] 52 [実績値] 46 <達成率> 88.5% | [目標値] 49 [実績値] 46 <達成率> 91.8% | 参加児童 生徒数 (単位:人) | [目標値] 1,073 [実績値] 925 <達成率> 86.2% | [目標値] 1,033 [実績値] 984 <達成率> 95.3% | [目標値] 978 [実績値] 807 <達成率> 82.5% | [目標値] 905 [実績値] 807 <達成率> 89.2% | A | A | 継続 (理由) 市立小・中・高等学校の音楽等文化活動の充実を図り、九州・全国大会出場に要する経費の助成を行うことは必要である。 |
| 人権啓発 講演会、地 域別人権 問題研修 会開催回 数 (単位:回) | [目標値] 14 [実績値] 14 <達成率> 100.0% | [目標値] 14 [実績値] 14 <達成率> 100.0% | [目標値] 14 [実績値] 14 <達成率> 100.0% | [目標値] 14 [実績値] 14 <達成率> 100.0% | アンケート 調査による 満足度 (単位:%) | [目標値] 100 [実績値] 91 <達成率> 91.0% | [目標値] 100 [実績値] 92 <達成率> 92.0% | [目標値] 100 [実績値] 93 <達成率> 93.0% | [目標値] 100 [実績値] 93 <達成率> 93.0% | A | A | 継続 (理由) 人権問題の解決に向けて、市民の理解と認識をさらに深めるため、今後も啓発活動を継続的に行うことが必要である。 |
| 市教委作 成の人権 教育資料 の配付校 園数 (単位:件) | [目標値] 124 [実績値] 124 <達成率> 100.0% | [目標値] 124 [実績値] 124 <達成率> 100.0% | [目標値] 124 [実績値] 124 <達成率> 100.0% | [目標値] 124 [実績値] 124 <達成率> 100.0% | 人権教育 資料を活 用した校 内研修実 施校数 (単位:件) | [目標値] 124 [実績値] 124 <達成率> 100.0% | [目標値] 124 [実績値] 124 <達成率> 100.0% | [目標値] 124 [実績値] 124 <達成率> 100.0% | [目標値] 124 [実績値] 124 <達成率> 100.0% | A | A | 継続 (理由) 「人権教育は全ての教育の基本」であり、人権教育の推進は、本市における重要な事業である。本事業を推進していく指導者を育成することや、人権に関する教職員の研修を充実させ、人権教育に対する認識と理解を深めるとともに、人権尊重の視点に立った教育活動を充実させていくことは重要であるため。 |

4 個別の事務事業評価シート（概要）

| No. | 事務事業名 | 事業実施課 | 事業区分 | 事業概要 | 財源 | 概算コスト(単位:千円) | | | |
|-----|-------------------|-------|-------|--|-----|---|---|---|---|
| | | | | | | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
| 7 | 生徒指導の充実 | 青少年課 | その他 | ○事業開始年度 平成4年度 【概要】生徒指導に関する研修会を実施して、教職員の生徒指導力の向上を図るとともに、児童生徒の「いじめ防止」の啓発事業として、毎年5月25日から6月25日の1ヶ月間、いじめ防止啓発強調月間(ニコニコ月間)を設定し、「いじめ」について考える週間の実施やポスター・標語への取組を行う。 【対象者】教職員、児童生徒 【具体的な活動内容】いじめ防止啓発強調月間作品募集や市生徒指導関係研修会、専門の講師を学校に派遣する生徒指導講師派遣事業等の実施 | 市単 | [概算コスト] 5,135 (内訳) ・決算額 2,633 ・人件費 2,502 (0.32人) | [概算コスト] 5,133 (内訳) ・決算額 2,657 ・人件費 2,476 (0.32人) | [概算コスト] 5,306 (内訳) ・決算額 2,847 ・人件費 2,459 (0.32人) | [概算コスト] 5,208 (内訳) ・予算額 2,716 ・人件費 2,492 (0.32人) |
| 8 | 不登校児童生徒支援事業 | 青少年課 | 相談 | ○事業開始年度 平成2年度 【概要】適応指導教室を設置し、不登校児童生徒への支援と、保護者などの相談に応じる。 【対象者】小・中学生、保護者、教職員 【具体的な活動内容】 ・適応指導教室での集団再適応、自立を援助する学習・訓練 ・適応指導教室での学習・生活指導 ・適応指導教室での保護者に対する相談活動 ・学習支援員の訪問学習指導及び相談活動 ・年2回(6月、11月)の在籍校との適応指導教室連絡会 | 市単 | [概算コスト] 29,396 (内訳) ・決算額 27,520 ・人件費 1,876 (0.24人) | [概算コスト] 29,830 (内訳) ・決算額 27,973 ・人件費 1,857 (0.24人) | [概算コスト] 30,450 (内訳) ・決算額 28,606 ・人件費 1,844 (0.24人) | [概算コスト] 32,519 (内訳) ・予算額 30,650 ・人件費 1,869 (0.24人) |
| 9 | 臨床心理相談員活用事業 | 青少年課 | 相談 | ○事業開始年度 平成25年度 【概要】適応指導教室に臨床心理士の資格を持つ臨床心理相談員を配置し、専門性を必要とする教育相談や心理検査、カウンセリングを行う。 【対象者】児童生徒、保護者、教職員 【具体的な活動内容】 ・児童生徒・保護者への専門性を必要とする教育相談や心理検査 ・学校事故等、緊急時における児童生徒、保護者へのカウンセリング ・適応指導教室での不登校児童生徒に対するソーシャルスキルトレーニング等を実施 ・不登校児童生徒及び保護者に対するカウンセリング ・処遇困難なケースの教職員・相談員等に対する指導・助言 | 市単 | [概算コスト] 15,432 (内訳) ・決算額 15,276 ・人件費 156 (0.02人) | [概算コスト] 15,502 (内訳) ・決算額 15,347 ・人件費 155 (0.02人) | [概算コスト] 14,980 (内訳) ・決算額 14,826 ・人件費 154 (0.02人) | [概算コスト] 16,068 (内訳) ・予算額 15,912 ・人件費 156 (0.02人) |
| 10 | スクールソーシャルワーカー活用事業 | 青少年課 | 相談 | ○事業開始年度 平成20年度 【概要】いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待など児童生徒の問題行動等の背景にある家庭や友人関係、地域、学校などの環境への働きかけを行う。 【対象者】児童生徒、教職員、保護者、関係機関 【具体的な活動内容】 ・問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけ ・関係機関とのネットワークの構築、連携・調整 ・学校内におけるチーム体制の構築、支援 ・保護者、教職員等に対する支援・相談・情報提供 ・教職員等への研修活動 | 国補助 | [概算コスト] 8,660 (内訳) ・決算額 8,035 ・人件費 625 (0.08人) | [概算コスト] 8,647 (内訳) ・決算額 8,028 ・人件費 619 (0.08人) | [概算コスト] 8,665 (内訳) ・決算額 8,050 ・人件費 615 (0.08人) | [概算コスト] 8,711 (内訳) ・予算額 8,088 ・人件費 623 (0.08人) |
| 11 | 心のパートナー派遣事業 | 青少年課 | 相談 | ○事業開始年度 平成21年度 【概要】教職や心理学を学んでいる大学生や大学院生を適応指導教室や要請のあった学校に派遣し、適応指導教室通級生及び保健室や別室登校の児童生徒への学習やスポーツ活動等の支援を行う。 【対象者】不登校及び不登校傾向の小・中学生 【具体的な活動内容】 ・適応指導教室通級生の学習支援やスポーツ活動の支援 ・適応指導教室通級生の相談相手や話相手 ・適応指導教室での文化施設等を利用した活動の支援 ・要請学校の保健室や別室登校の児童生徒への学習支援 ・要請学校の保健室や別室登校の児童生徒への相談相手 | 市単 | [概算コスト] 1,567 (内訳) ・決算額 1,489 ・人件費 78 (0.01人) | [概算コスト] 1,573 (内訳) ・決算額 1,496 ・人件費 77 (0.01人) | [概算コスト] 1,565 (内訳) ・決算額 1,488 ・人件費 77 (0.01人) | [概算コスト] 1,609 (内訳) ・予算額 1,531 ・人件費 78 (0.01人) |
| 12 | いじめ問題等調査委員会 | 青少年課 | 調査・研究 | ○事業開始年度 平成27年度 【概要】教育委員会の諮問に応じて、いじめの防止等の対策に関すること、重大事故に係る調査に関すること、その他教育委員会が必要と認める事項について調査審議する。 【対象者】教職員、児童生徒 【具体的な活動内容】いじめ問題等に関する専門的な知識及び経験を有する者6人以下の委員により、年2回、定例の委員会を開催し、いじめの防止等の対策や事故調査の在り方等について検討する。また、実際に重大事故が発生した場合は、緊急に委員会を開催し調査を行う。 | 市単 | [概算コスト] 428 (内訳) ・決算額 115 ・人件費 313 (0.04人) | [概算コスト] 425 (内訳) ・決算額 115 ・人件費 310 (0.04人) | [概算コスト] 431 (内訳) ・決算額 124 ・人件費 307 (0.04人) | [概算コスト] 437 (内訳) ・予算額 126 ・人件費 311 (0.04人) |

【評価区分】

A: 継続 引き続き改善・工夫に努めながら継続する
 B: 見直し 事業の実施方法等を見直す必要がある
 C: 統合 事業の統合を検討すべき
 D: 縮小 事業規模を縮小する必要がある

E: 休止 制度は必要だが、事業を休止すべき
 F: 廃止 制度自体を廃止すべき
 G: 終了 事業の終りに合わせて、終了すべき

| 主な活動指標 | | | | | 主な成果指標 | | | | | 一次評価結果 | 二次評価結果 | 評価理由 |
|--------------------------------|--|--|--|--|--------------------------|---|---|---|---|--------|--------|--|
| 指標名 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 指標名 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | | | |
| いじめ防止啓発強調月間作品コンクール回数 (単位:回) | [目標値] 1 [実績値] 1 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 1 [実績値] 1 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 1 [実績値] 1 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 1 [実績値] 1 〈達成率〉 100.0% | 作品展出品数 (単位:点) | [目標値] 51,132 [実績値] 60,218 〈達成率〉 117.8% | [目標値] 51,043 [実績値] 57,625 〈達成率〉 112.9% | [目標値] 51,152 [実績値] 58,478 〈達成率〉 114.3% | [目標値] 51,179 [実績値] 58,478 〈達成率〉 114.3% | A | A | 継続 (理由) いじめ防止等のための基本的な方針の改定に伴い、学校、家庭、地域及び関係機関の連携強化がさらに必要になっている。 また、生徒指導に関する問題が多様化及び複雑化する中で、教職員の資質向上は必須の課題であるため、必要な事業である。 |
| 適応指導相談員数 (単位:人) | [目標値] 8 [実績値] 8 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 8 [実績値] 8 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 8 [実績値] 8 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 8 [実績値] 8 〈達成率〉 100.0% | 適応指導教室通級生学校復帰率 (単位:%) | [目標値] 80 [実績値] 80 〈達成率〉 100.1% | [目標値] 80 [実績値] 79 〈達成率〉 98.8% | [目標値] 80 [実績値] 87 〈達成率〉 109.3% | [目標値] 80 [実績値] 87 〈達成率〉 109.3% | A | A | 継続 (理由) 不登校児童生徒は、市の喫緊の課題であり、適応指導教室の通級生及び学習支援員等の活用を希望する保護者も増加してきており、学校復帰への一段階としてニーズが高いため、今後も必要な事業である。 |
| 臨床心理相談員数 (単位:人) | [目標値] 5 [実績値] 5 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 5 [実績値] 5 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 5 [実績値] 5 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 5 [実績値] 5 〈達成率〉 100.0% | 臨床心理相談延べ回数 (単位:回数) | [目標値] 3,060 [実績値] 2,349 〈達成率〉 76.8% | [目標値] 3,060 [実績値] 3,342 〈達成率〉 109.2% | [目標値] 3,060 [実績値] 2,756 〈達成率〉 90.1% | [目標値] 3,060 [実績値] 2,756 〈達成率〉 90.1% | A | A | 継続 (理由) 学校や市教育相談室での相談件数が年々増加しており、専門性を必要とするケースも増加している。学校内外で事故に遭遇した際の心のケアも含め、臨床心理士の資格を有する相談員が、専門的な見地から相談活動にあたるため、今後も必要な事業である。 |
| スクールソーシャルワーカー数 (単位:人) | [目標値] 4 [実績値] 4 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 4 [実績値] 4 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 4 [実績値] 4 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 4 [実績値] 4 〈達成率〉 100.0% | 対応児童生徒数 (単位:人) | [目標値] 213 [実績値] 178 〈達成率〉 83.6% | [目標値] 213 [実績値] 186 〈達成率〉 87.3% | [目標値] 213 [実績値] 232 〈達成率〉 108.9% | [目標値] 213 [実績値] 232 〈達成率〉 108.9% | A | A | 継続 (理由) 対応児童生徒数が年々増加してきている。また、様々な要因が絡む複雑なケースの増加により複数の関係機関等との連携がさらに必要となってきた。 今後も、児童生徒が置かれた環境への働きかけを行い、関係機関と連携して支援を行うために必要な事業である。 |
| 心のパートナー登録者数 (単位:人) | [目標値] 70 [実績値] 66 〈達成率〉 94.3% | [目標値] 70 [実績値] 62 〈達成率〉 88.6% | [目標値] 70 [実績値] 68 〈達成率〉 97.1% | [目標値] 70 [実績値] 68 〈達成率〉 97.1% | 適応指導教室・学校派遣回数 (単位:回) | [目標値] 840 [実績値] 773 〈達成率〉 92.0% | [目標値] 840 [実績値] 768 〈達成率〉 91.4% | [目標値] 840 [実績値] 791 〈達成率〉 94.2% | [目標値] 840 [実績値] 791 〈達成率〉 94.2% | A | A | 継続 (理由) 不登校児童生徒が増加しているとともに、別室登校の児童生徒も一定数おり、学校からの派遣要請も多い。大学生が関わることで、学校復帰できるケースもあり、今後も、不登校及び不登校傾向の児童生徒を支援するため、必要な事業である。 |
| 委員数 (単位:人) | [目標値] 6 [実績値] 6 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 6 [実績値] 6 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 6 [実績値] 6 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 6 [実績値] 6 〈達成率〉 100.0% | 委員会回数 (単位:回) | [目標値] 2 [実績値] 2 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 2 [実績値] 2 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 2 [実績値] 2 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 2 [実績値] 2 〈達成率〉 100.0% | A | A | 継続 (理由) 第三者の立場で、いじめについて審議することで、学校とは違う視点でいじめの未然防止、早期発見、早期対応を行えること。また、いじめによる重大事故が発生した場合、公正な調査を行うためにも、必要な事業である。 |

4 個別の事務事業評価シート（概要）

| No. | 事務事業名 | 事業実施課 | 事業区分 | 事業概要 | 財源 | 概算コスト(単位:千円) | | | |
|-----|---------------------------|-------|---------|--|-----|---|---|---|---|
| | | | | | | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
| 13 | 教育相談の充実 | 青少年課 | 相談 | ○事業開始年度 昭和52年度 【概要】面接や電話による教育相談やカウンセリング等を実施し、青少年の心身の健全な発達を支援する。 【対象者】児童生徒、保護者、教職員 【具体的な活動内容】 ・教育相談室での相談活動 ・スクールカウンセラーの相談活動 ・生活指導支援員による支援活動 ・教育相談室相談員等研修会の実施 | 国補助 | [概算コスト] 52,152 (内訳) ・決算額 50,276 ・人件費 1,876 (0.24人) | [概算コスト] 52,662 (内訳) ・決算額 50,805 ・人件費 1,857 (0.24人) | [概算コスト] 53,334 (内訳) ・決算額 51,490 ・人件費 1,844 (0.24人) | [概算コスト] 56,808 (内訳) ・予算額 54,939 ・人件費 1,869 (0.24人) |
| 14 | 学校体育活動の充実 | 保健体育課 | その他 | ○事業開始年度 昭和55年度 【概要】 ・教職員の資質向上 ・児童生徒の体力づくりの推進及び体力の向上 【対象者】 児童生徒、教職員 【具体的な活動内容】 ・研修会等の実施や研究協力校の委嘱、校内研修会への指導主事派遣を通して教職員の資質向上を図る。 ・体力・運動能力調査の結果を基に、児童生徒の体力をバランスよく高めるための取組を工夫・改善する。 | 市単 | [概算コスト] 3,921 (内訳) ・決算額 872 ・人件費 3,049 (0.39人) | [概算コスト] 3,840 (内訳) ・決算額 822 ・人件費 3,018 (0.39人) | [概算コスト] 3,868 (内訳) ・決算額 872 ・人件費 2,996 (0.39人) | [概算コスト] 3,907 (内訳) ・予算額 870 ・人件費 3,037 (0.39人) |
| 15 | 中・高等学校運動部活動活性化事業 | 保健体育課 | 助成・育成 | ○事業開始年度 平成10年度 【概要】 本市中・高等学校の運動部活動で専門的な指導者を必要とする学校に外部指導者を派遣することによって、各学校の運動部活動の活性化と競技力向上を図る。 【対象者】 市立中・高等学校 【具体的な活動内容】 ・外部指導者の派遣(40人、42回) ・外部指導者に対する研修会(1回/年) | 市単 | [概算コスト] 7,856 (内訳) ・決算額 6,605 ・人件費 1,251 (0.16人) | [概算コスト] 7,871 (内訳) ・決算額 6,633 ・人件費 1,238 (0.16人) | [概算コスト] 7,680 (内訳) ・決算額 6,451 ・人件費 1,229 (0.16人) | [概算コスト] 8,050 (内訳) ・予算額 6,804 ・人件費 1,246 (0.16人) |
| 16 | 学校プール施設等整備事業 | 保健体育課 | 施設維持・管理 | ○事業開始年度 昭和36年度 【概要】 ・プールの新設及び改修 【対象者】 小・中・高等学校 【具体的な活動内容】 ・老朽化したプールの施設整備を行う。 | 国補助 | [概算コスト] 393,116 (内訳) ・決算額 390,380 ・人件費 2,736 (0.35人) | [概算コスト] 367,404 (内訳) ・決算額 364,695 ・人件費 2,709 (0.35人) | [概算コスト] 296,237 (内訳) ・決算額 293,548 ・人件費 2,689 (0.35人) | [概算コスト] 364,679 (内訳) ・予算額 361,954 ・人件費 2,725 (0.35人) |
| 17 | 保健体育等推進助成事業(小体連・中体連活動の充実) | 保健体育課 | 助成・育成 | ○事業開始年度 昭和56年度 【概要】小学校体育連盟及び中学校体育連盟に補助金を交付することにより、各種記録会等の円滑な運営を図る。 【対象者】小学校体育連盟、中学校体育連盟 【具体的な活動内容】補助金の交付 | 市単 | [概算コスト] 9,368 (内訳) ・決算額 9,290 ・人件費 78 (0.01人) | [概算コスト] 9,367 (内訳) ・決算額 9,290 ・人件費 77 (0.01人) | [概算コスト] 9,367 (内訳) ・決算額 9,290 ・人件費 77 (0.01人) | [概算コスト] 9,368 (内訳) ・予算額 9,290 ・人件費 78 (0.01人) |
| 18 | 学校保健活動の充実 | 保健体育課 | 助成・育成 | ○事業開始年度 昭和55年度 【概要】 学校・地域社会・医療機関等と連携を図りながら、学校保健活動を推進するために、市学校保健会へ助成する。 【対象者】 教職員、保護者等 【具体的な活動内容】 ・市学校保健フォーラムの開催(平成7年度から出席者も一緒に協議するシンポジウムを実施) ・11ブロック別の地区学校保健研究協議会の開催 ・学校保健優良学校等の表彰 | 市単 | [概算コスト] 4,135 (内訳) ・決算額 2,709 ・人件費 1,426 (0.18人) | [概算コスト] 4,124 (内訳) ・決算額 2,711 ・人件費 1,413 (0.18人) | [概算コスト] 4,030 (内訳) ・決算額 2,630 ・人件費 1,400 (0.18人) | [概算コスト] 4,023 (内訳) ・予算額 2,630 ・人件費 1,393 (0.18人) |

【評価区分】

A: 継続 引き続き改善・工夫に努めながら継続する
 B: 見直し 事業の実施方法等を見直す必要がある
 C: 統合 事業の統合を検討すべき
 D: 縮小 事業規模を縮小する必要がある

E: 休止 制度は必要だが、事業を休止すべき
 F: 廃止 制度自体を廃止すべき
 G: 終了 事業の終りに合わせて、終了すべき

| 主な活動指標 | | | | | 主な成果指標 | | | | | 一次評価結果 | 二次評価結果 | 評価理由 |
|---------------------------------|--|--|--|--|----------------------------------|---|---|---|--|--------|--------|---|
| 指標名 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 指標名 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | | | |
| 教育相談室相談員数 (単位:人) | [目標値] 5 [実績値] 5 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 5 [実績値] 5 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 5 [実績値] 5 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 5 [実績値] 5 〈達成率〉 100.0% | 教育相談室相談回数 (単位:回数) | [目標値] 5,500 [実績値] 5,128 〈達成率〉 93.2% | [目標値] 5,500 [実績値] 5,146 〈達成率〉 93.6% | [目標値] 5,500 [実績値] 5,124 〈達成率〉 93.2% | [目標値] 5,500 [実績値] 5,124 〈達成率〉 93.2% | A | A | 継続 (理由) 毎年、各学校の児童生徒、保護者、教職員と総計で5,000回を超える相談がある。スクールカウンセラーも12,000回を超える相談がある。近年、相談内容も多岐にわたる傾向がある。今後も、学校において、相談者のニーズに応じて、早めに相談できる体制を整えるためにも必要な事業である。 |
| 指導主事派遣回数 (小中学校) (単位:回) | [目標値] 30 [実績値] 38 〈達成率〉 126.7% | [目標値] 30 [実績値] 37 〈達成率〉 123.3% | [目標値] 30 [実績値] 38 〈達成率〉 126.7% | [目標値] 30 [実績値] 38 〈達成率〉 126.7% | 体力・運動能力調査 体力合計点(小5) (単位:点) | [目標値] 54.5 [実績値] 53.4 〈達成率〉 98.0% | [目標値] 54.7 [実績値] 53.2 〈達成率〉 97.1% | [目標値] 54.9 [実績値] 53.0 〈達成率〉 96.4% | [目標値] 54.7 [実績値] 53.0 〈達成率〉 96.4% | A | A | 継続 (理由) 体力の向上には教職員の資質向上、運動の機会と時間の確保が不可欠であり、引き続き研究協力校を指定し、よりよい方策を探りながら工夫・改善に努める必要がある。 |
| 外部指導者の年間派遣回数 (単位:回) | [目標値] 1,680 [実績値] 1,631 〈達成率〉 97.1% | [目標値] 1,680 [実績値] 1,641 〈達成率〉 97.7% | [目標値] 1,680 [実績値] 1,596 〈達成率〉 95.0% | [目標値] 1,680 [実績値] 1,596 〈達成率〉 95.0% | 派遣により活性化している部活動数 (単位:件) | [目標値] 41 [実績値] 41 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 40 [実績値] 40 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 44 [実績値] 44 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 48 [実績値] 44 〈達成率〉 91.7% | A | A | 継続 (理由) 計画に沿って外部指導者の派遣を実施しているが、学校からの要望が高まっていることや、競技力向上の観点から、継続する必要がある。 |
| 整備件数(新築工事) (単位:件) | [目標値] 2 [実績値] 2 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 2 [実績値] 2 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 2 [実績値] 2 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 2 [実績値] 2 〈達成率〉 100.0% | 整備校数 (単位:校) | [目標値] 115 [実績値] 51 〈達成率〉 44.3% | [目標値] 115 [実績値] 53 〈達成率〉 46.1% | [目標値] 115 [実績値] 55 〈達成率〉 47.8% | [目標値] 115 [実績値] 55 〈達成率〉 47.8% | A | A | 継続 (理由) 教育環境の充実のために、継続する必要がある。 |
| 各種記録会等への参加校数 (小学校) (単位:校) | [目標値] 78 [実績値] 78 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 78 [実績値] 78 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 78 [実績値] 78 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 78 [実績値] 78 〈達成率〉 100.0% | 各種記録会等への参加児童数 (小学校) (単位:人) | [目標値] 5,234 [実績値] 5,706 〈達成率〉 109.0% | [目標値] 5,362 [実績値] 5,527 〈達成率〉 103.1% | [目標値] 5,267 [実績値] 5,452 〈達成率〉 103.5% | [目標値] 5,562 [実績値] 5,452 〈達成率〉 97.8% | A | A | 継続 (理由) 児童生徒の健康の増進と体力の向上のために、継続する必要がある。 |
| 地区学校保健研究協議会開催回数 (単位:回) | [目標値] 11 [実績値] 11 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 11 [実績値] 11 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 11 [実績値] 11 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 11 [実績値] 11 〈達成率〉 100.0% | 市学校保健フォーラム参加者数 (単位:人) | [目標値] 503 [実績値] 534 〈達成率〉 106.2% | [目標値] 502 [実績値] 572 〈達成率〉 113.9% | [目標値] 526 [実績値] 464 〈達成率〉 88.2% | [目標値] 523 [実績値] 464 〈達成率〉 88.7% | A | A | 継続 (理由) 児童生徒の健康の保持・増進を目指し、学校、家庭、地域が連携し、学校保健活動を充実させていくため、必要な事業である。 |

4 個別の事務事業評価シート（概要）

| No. | 事務事業名 | 事業実施課 | 事業区分 | 事業概要 | 財源 | 概算コスト(単位:千円) | | | |
|-----|----------------|-------|-------|--|----|---|---|---|---|
| | | | | | | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
| 19 | 性に関する指導推進事業 | 保健体育課 | その他 | ○事業開始年度 平成16年度 【概要】 小・中・高等学校の性に関する指導の充実を図るため、助産師や産婦人科・泌尿器科の医師等を講師として派遣し、性に関する講演会等を実施する。 【対象者】 児童生徒・教職員・保護者 【具体的な活動内容】 助産師や産婦人科・泌尿器科の医師等を派遣した講演会等の実施 | 市単 | [概算コスト] 1,988 (内訳) ・決算額 879 ・人件費 1,109 (0.14人) | [概算コスト] 1,978 (内訳) ・決算額 879 ・人件費 1,099 (0.14人) | [概算コスト] 1,968 (内訳) ・決算額 879 ・人件費 1,089 (0.14人) | [概算コスト] 1,963 (内訳) ・予算額 879 ・人件費 1,084 (0.14人) |
| 20 | 学校職員安全衛生管理事業 | 保健体育課 | その他 | ○事業開始年度 平成13年度 【概要】 小・中・高等学校に衛生委員会等を設置し、それぞれの学校職員数に応じて嘱託医や健康管理医を配置し、学校職員の保健管理や学校の作業環境の維持・管理について指導・助言を行う。 【対象者】 学校職員 【具体的な活動内容】 ・嘱託医、健康管理医による学校職員の健康診断の実施 ・学校の作業環境の維持管理 ・衛生委員会の開催 | 市単 | [概算コスト] 3,885 (内訳) ・決算額 2,855 ・人件費 1,030 (0.13人) | [概算コスト] 3,818 (内訳) ・決算額 2,798 ・人件費 1,020 (0.13人) | [概算コスト] 3,823 (内訳) ・決算額 2,812 ・人件費 1,011 (0.13人) | [概算コスト] 4,775 (内訳) ・予算額 3,769 ・人件費 1,006 (0.13人) |
| 21 | 学校職員ストレスチェック事業 | 保健体育課 | その他 | ○事業開始年度 平成28年度 【概要】 学校職員に対して、医師、保健師等による心理的な負担の程度を把握するための検査(ストレスチェック)を実施し、メンタルヘルス不調の未然防止を図る。 【対象者】 市立小中高等学校の正規職員(県費・市費)・再任用職員及び週の勤務時間が正規職員の3/4以上の講師・嘱託員 【具体的な活動内容】 ・webまたは紙媒体によるストレスチェック検査を受検 ・高ストレスと判断された者のうち申し出のあった者に対し医師面接指導 ・集団分析 | 市単 | [概算コスト] 0 (内訳) ・決算額 0 ・人件費 (0.00人) | [概算コスト] 2,363 (内訳) ・決算額 1,202 ・人件費 1,161 (0.15人) | [概算コスト] 2,633 (内訳) ・決算額 1,481 ・人件費 1,152 (0.15人) | [概算コスト] 4,003 (内訳) ・予算額 2,835 ・人件費 1,168 (0.15人) |
| 22 | 学校給食活動の充実 | 保健体育課 | 助成・育成 | ○事業開始年度 昭和45年度 【概要】 学校給食の充実を図り、学校給食の運営及び食生活に関する諸課題を調査研究するために、市学校給食協議会へ助成する。 【対象者】 児童生徒 【具体的な活動内容】 ・学校給食及び食生活に関する調査研究 ・学校給食作文募集 ・学校給食研究誌の発行 | 市単 | [概算コスト] 1,785 (内訳) ・決算額 200 ・人件費 1,585 (0.20人) | [概算コスト] 1,770 (内訳) ・決算額 200 ・人件費 1,570 (0.20人) | [概算コスト] 1,740 (内訳) ・決算額 185 ・人件費 1,555 (0.20人) | [概算コスト] 1,733 (内訳) ・予算額 185 ・人件費 1,548 (0.20人) |
| 23 | 子ども会育成事業 | 青少年課 | 助成・育成 | ○事業開始年度 昭和36年度 【概要】 あいご会、子ども会の組織の拡充、活動の強化を図るため、あいご主事をはじめ、育成者の資質の向上や、子ども会のリーダーの育成に努める。 【対象者】 あいご主事、子ども会リーダー、あいご会指導者・育成者 【具体的な活動内容】 あいご主事研修会、子ども会リーダー研修会、校区あいご会研修会の開催 | 市単 | [概算コスト] 8,842 (内訳) ・決算額 8,217 ・人件費 625 (0.08人) | [概算コスト] 8,842 (内訳) ・決算額 8,223 ・人件費 619 (0.08人) | [概算コスト] 8,807 (内訳) ・決算額 8,192 ・人件費 615 (0.08人) | [概算コスト] 8,881 (内訳) ・予算額 8,258 ・人件費 623 (0.08人) |
| 24 | 青少年問題協議会 | 青少年課 | 調査・研究 | ○事業開始年度 昭和42年度 【概要】 青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する施策を総合的に推進するため、青少年健全育成に関する施策等を審議するとともに、関係機関相互の連携調整を行う。 【対象者】 委員:学識経験者・公募市民・関係行政機関の職員 【具体的な活動内容】 ・年2回協議会を開き、青少年育成に関する総合的な施策について調査・審議する。 ・年2回専門委員会を開き、青少年育成に関する具体的事項について、協議テーマを設定し、2年間調査・研究する。 ・関係機関・団体に対して意見具申等を行うとともに連絡調整を図る。 | 市単 | [概算コスト] 1,673 (内訳) ・決算額 422 ・人件費 1,251 (0.16人) | [概算コスト] 1,620 (内訳) ・決算額 382 ・人件費 1,238 (0.16人) | [概算コスト] 1,591 (内訳) ・決算額 362 ・人件費 1,229 (0.16人) | [概算コスト] 1,739 (内訳) ・予算額 493 ・人件費 1,246 (0.16人) |

【評価区分】

A: 継続 引き続き改善・工夫に努めながら継続する
 B: 見直し 事業の実施方法等を見直す必要がある
 C: 統合 事業の統合を検討すべき
 D: 縮小 事業規模を縮小する必要がある

E: 休止 制度は必要だが、事業を休止すべき
 F: 廃止 制度自体を廃止すべき
 G: 終了 事業の終期に合わせて、終了すべき

| 主な活動指標 | | | | | 主な成果指標 | | | | | 一次評価結果 | 二次評価結果 | 評価理由 |
|------------------------|--|--|--|--|--|---|---|--|--|--------|--------|---|
| 指標名 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 指標名 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | | | |
| 学校への講師派遣校数 (単位:校) | [目標値] 61 [実績値] 61 <達成率> 100.0% | [目標値] 61 [実績値] 61 <達成率> 100.0% | [目標値] 61 [実績値] 61 <達成率> 100.0% | [目標値] 61 [実績値] 61 <達成率> 100.0% | 講演会等への参加者数 (単位:人) | [目標値] 10,084 [実績値] 9,173 <達成率> 91.0% | [目標値] 9,633 [実績値] 9,631 <達成率> 100.0% | [目標値] 9,680 [実績値] 9,199 <達成率> 95.0% | [目標値] 9,334 [実績値] 9,199 <達成率> 98.0% | A | A | 継続 (理由) 学校の性に関する指導を充実させるために、助産師などの専門家の講演会などを実施し、指導内容を補完・深化させることができるため、必要な事業である。 |
| 嘱託医配置校数 (単位:校) | [目標値] 12 [実績値] 12 <達成率> 100.0% | [目標値] 12 [実績値] 12 <達成率> 100.0% | [目標値] 15 [実績値] 15 <達成率> 100.0% | [目標値] 16 [実績値] 15 <達成率> 93.8% | 嘱託医の指導回数 (単位:回) | [目標値] 144 [実績値] 97 <達成率> 67.4% | [目標値] 144 [実績値] 128 <達成率> 88.9% | [目標値] 180 [実績値] 131 <達成率> 72.8% | [目標値] 192 [実績値] 131 <達成率> 68.2% | A | A | 継続 (理由) 労働安全衛生法に基づき実施されている事業であり、学校職員の健康・安全を維持していくため、必要な事業である。 |
| ストレスチェック受検者数 (単位:人) | [目標値] 3,624 [実績値] 2,432 <達成率> 67.1% | [目標値] 3,674 [実績値] 2,995 <達成率> 81.5% | [目標値] 3,600 [実績値] 2,995 <達成率> 83.2% | [目標値] 3,600 [実績値] 2,995 <達成率> 83.2% | 高ストレス判定者のうち医師面接指導を受けた割合 (単位:%) ※高ストレス判定者…受検者数のおよそ10% | [目標値] 5 [実績値] 4.7 <達成率> 94.0% | [目標値] 5 [実績値] 3.7 <達成率> 74.0% | [目標値] 5 [実績値] 3.7 <達成率> 74.0% | [目標値] 5 [実績値] 3.7 <達成率> 74.0% | A | A | 継続 (理由) 労働安全衛生法に基づき実施する事業であり、学校職員自身への気付きを促し、ストレスの原因となる職場環境の改善につなげ、メンタルヘルス不調を未然に防止するために必要な事業である。 |
| アンケート調査実施校数 (単位:校) | [目標値] 11 [実績値] 11 <達成率> 100.0% | [目標値] 11 [実績値] 11 <達成率> 100.0% | [目標値] 11 [実績値] 11 <達成率> 100.0% | [目標値] 11 [実績値] 11 <達成率> 100.0% | 研究誌発行回数 (単位:回) | [目標値] 1 [実績値] 1 <達成率> 100.0% | [目標値] 1 [実績値] 1 <達成率> 100.0% | [目標値] 1 [実績値] 1 <達成率> 100.0% | [目標値] 1 [実績値] 1 <達成率> 100.0% | A | A | 継続 (理由) 学校給食の円滑な運営及び食に関する指導を充実するため、必要な事業である。 |
| 校区あいご会研修会開催数 (単位:回) | [目標値] 78 [実績値] 78 <達成率> 100.0% | [目標値] 78 [実績値] 78 <達成率> 100.0% | [目標値] 78 [実績値] 78 <達成率> 100.0% | [目標値] 78 [実績値] 78 <達成率> 100.0% | 校区あいご会研修会参加者数 (単位:人) | [目標値] 4,200 [実績値] 4,321 <達成率> 102.9% | [目標値] 4,354 [実績値] 3,602 <達成率> 82.7% | [目標値] 4,027 [実績値] 3,760 <達成率> 93.4% | [目標値] 3,894 [実績値] 3,760 <達成率> 96.6% | A | A | 継続 (理由) 子ども会指導者の資質が高まり、自主的な活動が促進されることで、市民の青少年育成に対する積極的な取組の高まりが期待できることから、必要な事業である。 |
| 協議会委員数 (単位:人) | [目標値] 25 [実績値] 25 <達成率> 100.0% | [目標値] 25 [実績値] 25 <達成率> 100.0% | [目標値] 25 [実績値] 25 <達成率> 100.0% | [目標値] 25 [実績値] 25 <達成率> 100.0% | 青少年健全育成に係る会議の回数 (単位:回) | [目標値] 6 [実績値] 6 <達成率> 100.0% | [目標値] 6 [実績値] 6 <達成率> 100.0% | [目標値] 6 [実績値] 6 <達成率> 100.0% | [目標値] 6 [実績値] 6 <達成率> 100.0% | A | A | 継続 (理由) 総合的な立場から青少年問題について検討を行い、諸問題解決のための提言等を行っている。また、広報活動の一環として、その成果をリーフレットにまとめ、保護者、教職員等に広く配布を行っており、必要な事業である。 |

4 個別の事務事業評価シート（概要）

| No. | 事務事業名 | 事業実施課 | 事業区分 | 事業概要 | 財源 | 概算コスト(単位:千円) | | | |
|-----|--------------------|-------|-------|---|----|---|---|---|---|
| | | | | | | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
| 25 | 青年教養セミナーの開設 | 青少年課 | 助成・育成 | ○事業開始年度 昭和30年度 【概要】 生涯学習の定着を図るため、青年教養セミナーを開設し、各種勉強会、研修会への参加を通じて、自主グループの育成を図る。 【対象者】 青年(15歳～おおむね40歳) 【具体的な活動内容】 青年教養セミナーの開設 | 市単 | [概算コスト] 1,207 (内訳) ・決算額 582 ・人件費 625 (0.08人) | [概算コスト] 1,207 (内訳) ・決算額 588 ・人件費 619 (0.08人) | [概算コスト] 1,195 (内訳) ・決算額 580 ・人件費 615 (0.08人) | [概算コスト] 1,324 (内訳) ・予算額 701 ・人件費 623 (0.08人) |
| 26 | 青少年教育指導者の養成 | 青少年課 | 助成・育成 | ○事業開始年度 昭和50年度 【概要】 社会教育団体のリーダーの中から指導的役割を果たす者を発掘し、有志指導者として養成する。 【対象者】 社会教育団体の指導者 【具体的な活動内容】 少年団体成人指導者研修会及びあいご会役員研修会、青年団体指導者及びセミナー主事等研修会、ジュニアリーダー養成研修への派遣 | 市単 | [概算コスト] 715 (内訳) ・決算額 90 ・人件費 625 (0.08人) | [概算コスト] 700 (内訳) ・決算額 81 ・人件費 619 (0.08人) | [概算コスト] 691 (内訳) ・決算額 76 ・人件費 615 (0.08人) | [概算コスト] 725 (内訳) ・予算額 102 ・人件費 623 (0.08人) |
| 27 | 新成人のつどい | 青少年課 | イベント | ○事業開始年度 昭和28年度 【概要】 二十歳を迎えた青年が、大人としての責任や義務を自覚し、強く生き抜くための意欲を高めるとともに、県都鹿兒島市のまちづくりのための大きな力となるよう、新成人の門出を祝い激励する。 【対象者】 平成10年4月2日から平成11年4月1日までに生まれ、現在、鹿兒島市に居住、または帰省中の新成人 【具体的な活動内容】 ・新成人のつどいの開催・実行委員会の設置・記念誌の作成 | 市単 | [概算コスト] 5,559 (内訳) ・決算額 3,604 ・人件費 1,955 (0.25人) | [概算コスト] 5,550 (内訳) ・決算額 3,615 ・人件費 1,935 (0.25人) | [概算コスト] 5,553 (内訳) ・決算額 3,632 ・人件費 1,921 (0.25人) | [概算コスト] 5,741 (内訳) ・予算額 3,794 ・人件費 1,947 (0.25人) |
| 28 | 青年会館事業 | 青少年課 | 助成・育成 | ○事業開始年度 昭和62年度 【概要】 青年の研修、社会教育活動を促進し、心身ともに健全な青年の育成を図る。 【対象者】 青年(おおむね40歳まで) 【具体的な活動内容】 ・青年会館の効果的運営のための設備の充実 ・講座、研修会等の充実 ・団体活動や会館利用者に対する助言、指導 | 市単 | [概算コスト] 1,848 (内訳) ・決算額 597 ・人件費 1,251 (0.16人) | [概算コスト] 1,821 (内訳) ・決算額 583 ・人件費 1,238 (0.16人) | [概算コスト] 1,814 (内訳) ・決算額 585 ・人件費 1,229 (0.16人) | [概算コスト] 1,719 (内訳) ・予算額 473 ・人件費 1,246 (0.16人) |
| 29 | 青少年ふれあい交流・体験活動促進事業 | 青少年課 | 助成・育成 | ○事業開始年度 平成17年度 【概要】 豊かな自然の中で、異年齢グループによる野外活動を通して、暑さに負けないたくましい心身をもつ心豊かで元気あふれる「さつまっ子」を育成する。 【対象者】 小学校4年生～6年生、ジュニアリーダー 【具体的な活動内容】 ・1泊2日(夏季休業中) ・大垣少年の船団員との交流、少年自然の家泊、川遊び体験 | 市単 | [概算コスト] 893 (内訳) ・決算額 268 ・人件費 625 (0.08人) | [概算コスト] 886 (内訳) ・決算額 267 ・人件費 619 (0.08人) | [概算コスト] 856 (内訳) ・決算額 241 ・人件費 615 (0.08人) | [概算コスト] 937 (内訳) ・予算額 314 ・人件費 623 (0.08人) |
| 30 | 青少年ボランティア活動推進事業 | 青少年課 | 助成・育成 | ○事業開始年度 平成14年度 【概要】 学校や地域社会、少年団体等における青少年のボランティア活動を促進するために、中学生を対象にボランティア活動の意義や活動の進め方等についての研修を行い、ボランティアジュニアリーダーを養成する。 (中央公民館、谷山市民会館(2会場)) 【対象者】 市内国公立中学校1、2年生 【具体的な活動内容】 ・講義、演習等 | 市単 | [概算コスト] 668 (内訳) ・決算額 43 ・人件費 625 (0.08人) | [概算コスト] 660 (内訳) ・決算額 41 ・人件費 619 (0.08人) | [概算コスト] 656 (内訳) ・決算額 41 ・人件費 615 (0.08人) | [概算コスト] 664 (内訳) ・予算額 41 ・人件費 623 (0.08人) |

【評価区分】

A: 継続 引き続き改善・工夫に努めながら継続する
 B: 見直し 事業の実施方法等を見直す必要がある
 C: 統合 事業の統合を検討すべき
 D: 縮小 事業規模を縮小する必要がある

E: 休止 制度は必要だが、事業を休止すべき
 F: 廃止 制度自体を廃止すべき
 G: 終了 事業の終りに合わせて、終了すべき

| 主な活動指標 | | | | | 主な成果指標 | | | | | 一次評価結果 | 二次評価結果 | 評価理由 |
|---------------------------------------|---|---|---|---|---|--|---|---|--|--------|--------|--|
| 指標名 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 指標名 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | | | |
| 青年教養セミナー主催の委嘱数 (単位:人) | [目標値] 5 [実績値] 5 <達成率> 100.0% | [目標値] 5 [実績値] 5 <達成率> 100.0% | [目標値] 5 [実績値] 5 <達成率> 100.0% | [目標値] 6 [実績値] 5 <達成率> 100.0% | セミナー生の数 (単位:人) | [目標値] 65 [実績値] 86 <達成率> 132.3% | [目標値] 65 [実績値] 63 <達成率> 96.9% | [目標値] 65 [実績値] 68 <達成率> 104.6% | [目標値] 78 [実績値] 68 <達成率> 87.1% | A | A | 継続 (理由) 青年が、個々の人間性を豊かにし、資質の向上を図るため、学習の場と機会の提供ができており、必要な事業である。 |
| 少年団体成人指導者研修会及びあいご会役員研修会実施回数 (単位:回) | [目標値] 2 [実績値] 2 <達成率> 100.0% | [目標値] 2 [実績値] 2 <達成率> 100.0% | [目標値] 2 [実績値] 2 <達成率> 100.0% | [目標値] 2 [実績値] 2 <達成率> 100.0% | 少年団体成人指導者研修会及びあいご会役員研修会参加団体数 (単位:団体) | [目標値] 83 [実績値] 68 <達成率> 81.9% | [目標値] 83 [実績値] 69 <達成率> 83.1% | [目標値] 83 [実績値] 71 <達成率> 85.5% | [目標値] 83 [実績値] 71 <達成率> 85.5% | A | A | 継続 (理由) 青少年の健全育成を図り、指導者を育成するため、必要な事業である。 |
| 実行委員会実施回数 (単位:回) | [目標値] 8 [実績値] 8 <達成率> 100.0% | [目標値] 8 [実績値] 8 <達成率> 100.0% | [目標値] 8 [実績値] 8 <達成率> 100.0% | [目標値] 8 [実績値] 8 <達成率> 100.0% | 実行委員会参加延べ人数 (単位:人) | [目標値] 136 [実績値] 104 <達成率> 76.5% | [目標値] 176 [実績値] 154 <達成率> 87.5% | [目標値] 224 [実績値] 182 <達成率> 81.3% | [目標値] 168 [実績値] 168 <達成率> 100.0% | A | A | 継続 (理由) 「新成人のつどい」は、成人に達する人々を招き、全市民が激励・祝福する行事のため、必要な事業である。 |
| 青年会館講座開設数 (単位:講座) | [目標値] 7 [実績値] 7 <達成率> 100.0% | [目標値] 9 [実績値] 9 <達成率> 100.0% | [目標値] 9 [実績値] 9 <達成率> 100.0% | [目標値] 9 [実績値] 9 <達成率> 100.0% | 青年会館講座受講延べ人数 (単位:人) | [目標値] 896 [実績値] 883 <達成率> 98.5% | [目標値] 948 [実績値] 1,007 <達成率> 106.2% | [目標値] 845 [実績値] 975 <達成率> 115.4% | [目標値] 1,022 [実績値] 975 <達成率> 95.4% | A | A | 継続 (理由) 青年の学ぶ機会と場を提供するため、必要な事業である。 |
| 実施回数 (単位:回) | [目標値] 1 [実績値] 1 <達成率> 100.0% | [目標値] 1 [実績値] 1 <達成率> 100.0% | [目標値] 1 [実績値] 1 <達成率> 100.0% | [目標値] 1 [実績値] 1 <達成率> 100.0% | 参加者数 (単位:人) | [目標値] 44 [実績値] 24 <達成率> 54.5% | [目標値] 44 [実績値] 28 <達成率> 63.6% | [目標値] 44 [実績値] 35 <達成率> 79.5% | [目標値] 44 [実績値] 44 <達成率> 100.0% | A | A | 継続 (理由) 心豊かで元気あふれる「さつまっ子」を育成するとともに、フレンドリーシティ大垣市の大垣少年の船団員との交流を兼ねているため、必要な事業である。 |
| 実施回数 (単位:回) | [目標値] 2 [実績値] 2 <達成率> 100.0% | [目標値] 2 [実績値] 2 <達成率> 100.0% | [目標値] 2 [実績値] 2 <達成率> 100.0% | [目標値] 2 [実績値] 2 <達成率> 100.0% | 参加者数 (単位:人) | [目標値] 171 [実績値] 140 <達成率> 81.9% | [目標値] 171 [実績値] 147 <達成率> 86.0% | [目標値] 171 [実績値] 142 <達成率> 83.0% | [目標値] 171 [実績値] 171 <達成率> 100.0% | A | A | 継続 (理由) ボランティアに関する基礎的な知識や技術を得るとともに青少年ボランティアのリーダーを育てるために、必要な事業である。 |

4 個別の事務事業評価シート（概要）

| No. | 事務事業名 | 事業実施課 | 事業区分 | 事業概要 | 財源 | 概算コスト(単位:千円) | | | |
|-----|-------------------------|--------|-------|--|----|---|---|---|---|
| | | | | | | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
| 31 | 子ども体験活動支援情報誌作成事業 | 青少年課 | 助成・育成 | ○事業開始年度 平成15年度 【概要】 ・子どもの体験活動機会や家庭教育支援に関する情報収集・情報誌の作成や配布 ・子どもの体験活動に関する相談や紹介 【対象者】 市内幼稚園、各小・中学生を持つ家庭、学校関係施設等 【具体的な活動内容】 ・48,000部を年6回(4、6、8、10、12、2月)発行する。 | 市単 | [概算コスト] 3,953 (内訳) ・決算額 1,998 ・人件費 1,955 (0.25人) | [概算コスト] 3,931 (内訳) ・決算額 1,996 ・人件費 1,935 (0.25人) | [概算コスト] 3,972 (内訳) ・決算額 2,051 ・人件費 1,921 (0.25人) | [概算コスト] 4,187 (内訳) ・予算額 2,240 ・人件費 1,947 (0.25人) |
| 32 | 心豊かで元気あふれる「さつまっ子」育成市民会議 | 青少年課 | 助成・育成 | ○事業開始年度 平成15年度 【概要】 次代の鹿児島市を担う心豊かで元気あふれる「さつまっ子」を市民全体で育成するため、市民会議を設置し、市民ぐるみで青少年の健全育成活動を推進する。 【対象者】 児童生徒及び関係機関・団体の代表者等 【具体的な活動内容】 市民会議、企画運営委員会、明るく楽しい学校づくり市民大会、さつまっ子のつどい、心のとびらを開く家庭づくり講座の開催 | 市単 | [概算コスト] 2,282 (内訳) ・決算額 1,031 ・人件費 1,251 (0.16人) | [概算コスト] 2,174 (内訳) ・決算額 936 ・人件費 1,238 (0.16人) | [概算コスト] 2,174 (内訳) ・決算額 945 ・人件費 1,229 (0.16人) | [概算コスト] 2,339 (内訳) ・予算額 1,093 ・人件費 1,246 (0.16人) |
| 33 | 少年自然の家主催事業 | 少年自然の家 | イベント | ○事業開始年度 昭和50年度 【概要】 青少年をはじめ市民に広く学習活動・体験活動の機会を提供し、施設の有効活用と広く市民に利用の拡大を図る。 【対象者】 児童生徒及びその保護者等 【具体的な活動内容】 ・親子ふれあいシリーズ ・わんぱくシリーズ ・天体シリーズ ・施設開放シリーズ ・農業・収穫シリーズなど | 市単 | [概算コスト] 6,539 (内訳) ・決算額 285 ・人件費 6,254 (0.80人) | [概算コスト] 6,666 (内訳) ・決算額 475 ・人件費 6,191 (0.80人) | [概算コスト] 6,760 (内訳) ・決算額 614 ・人件費 6,146 (0.80人) | [概算コスト] 6,565 (内訳) ・予算額 336 ・人件費 6,229 (0.80人) |
| 34 | わくわくアドベンチャー事業 | 少年自然の家 | イベント | ○事業開始年度 平成18年度 【概要】 三島村硫黄島で3泊4日の生活体験キャンプを実施する。 【対象者】 小学4年生から高校3年生まで 100人 【具体的な活動内容】 ・出発式、船内活動(往路)、島の歴史を聞く夕べ ・冒険ウォークラリー(俊寛堂、平家墓、恋人岬、東温泉他)、ジャンベ体験、三島II乗船体験 ・船内活動(復路)、修了式 | 市単 | [概算コスト] 3,024 (内訳) ・決算額 835 ・人件費 2,189 (0.28人) | [概算コスト] 2,244 (内訳) ・決算額 77 ・人件費 2,167 (0.28人) | [概算コスト] 3,030 (内訳) ・決算額 879 ・人件費 2,151 (0.28人) | [概算コスト] 3,298 (内訳) ・予算額 1,118 ・人件費 2,180 (0.28人) |
| 35 | 図書館子どもの読書活動支援事業 | 図書館 | その他 | ○事業開始年度 平成18年度 【概要】 子どもが主体的に読書活動に取り組む環境づくりを推進するため、幼稚園等に読み聞かせ講師、小・中学校にブックトーク講師を派遣するとともに、幼稚園等を通じて絵本ガイドを配付する。 また、毎週木曜日と土曜日は定期的にお話会等を実施している。 【対象者】 乳幼児及び小・中学生とその保護者、教職員 【具体的な活動内容】 ・読み聞かせ講師派遣:幼稚園、保育園、小学校等 ・ブックトーク講師派遣:小・中学校等 ・絵本ガイド配付:幼稚園等を通じて4歳児に絵本ガイド(4~6歳児向け)を配付する。(平成21年度から) | 市単 | [概算コスト] 552 (内訳) ・決算額 474 ・人件費 78 (0.01人) | [概算コスト] 504 (内訳) ・決算額 427 ・人件費 77 (0.01人) | [概算コスト] 409 (内訳) ・決算額 332 ・人件費 77 (0.01人) | [概算コスト] 577 (内訳) ・予算額 499 ・人件費 78 (0.01人) |
| 36 | ブックスタート事業 | 図書館 | その他 | ○事業開始年度 平成19年度 【概要】 0歳児とその保護者に絵本を配付し、家庭での読み聞かせを通じて赤ちゃんの言葉と心を育てるとともに、家庭のあたたかい心の交流を支援する。 【対象者】 0歳児とその保護者 【具体的な活動内容】 市民課等での出生届の際、絵本及び絵本ガイド(0~3歳児向け)等を配付する。 | 市単 | [概算コスト] 3,151 (内訳) ・決算額 3,073 ・人件費 78 (0.01人) | [概算コスト] 3,048 (内訳) ・決算額 2,971 ・人件費 77 (0.01人) | [概算コスト] 3,197 (内訳) ・決算額 3,120 ・人件費 77 (0.01人) | [概算コスト] 3,234 (内訳) ・予算額 3,156 ・人件費 78 (0.01人) |
| 37 | 学校図書館運営事業 | 学校教育課 | 助成・育成 | ○事業開始年度 昭和36年度 【概要】 市立小中学校の学校図書館の円滑な運営を図るため、学校図書館司書を配置するとともに、司書としての資質の向上を図る。 【対象者】 全小中学校 【具体的な活動内容】 ・全小中学校に1人配置(116人) ・小中併設校の錫山小中学校には1人配置 ・司書としての資質向上を図る研修会の実施(年4回) | 市単 | [概算コスト] 269,319 (内訳) ・決算額 268,068 ・人件費 1,251 (0.16人) | [概算コスト] 274,544 (内訳) ・決算額 273,306 ・人件費 1,238 (0.16人) | [概算コスト] 319,452 (内訳) ・決算額 318,223 ・人件費 1,229 (0.16人) | [概算コスト] 320,715 (内訳) ・予算額 319,469 ・人件費 1,246 (0.16人) |

【評価区分】

- A: 継続 引き続き改善・工夫に努めながら継続する
- B: 見直し 事業の実施方法等を見直す必要がある
- C: 統合 事業の統合を検討すべき
- D: 縮小 事業規模を縮小する必要がある

- E: 休止 制度は必要だが、事業を休止すべき
- F: 廃止 制度自体を廃止すべき
- G: 終了 事業の終りに合わせて、終了すべき

| 主な活動指標 | | | | | 主な成果指標 | | | | | 一次評価結果 | 二次評価結果 | 評価理由 |
|--------------------------------|--|--|--|--|--------------------------------------|---|---|---|---|--------|--------|--|
| 指標名 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 指標名 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | | | |
| 発行回数 (単位:回) | [目標値] 6 [実績値] 6 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 6 [実績値] 6 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 6 [実績値] 6 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 6 [実績値] 6 〈達成率〉 100.0% | 掲載情報数 (単位:件) | [目標値] 900 [実績値] 844 〈達成率〉 93.8% | [目標値] 900 [実績値] 893 〈達成率〉 99.2% | [目標値] 900 [実績値] 908 〈達成率〉 100.9% | [目標値] 900 [実績値] 908 〈達成率〉 100.9% | A | A | 継続 (理由) 子どもの体験活動に対する適切な機会や場に関する実効性の高い活動情報を提供するために、必要な事業である。 |
| 市民会議実施回数 (単位:回) | [目標値] 3 [実績値] 3 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 3 [実績値] 3 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 3 [実績値] 3 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 3 [実績値] 3 〈達成率〉 100.0% | 市民会議企画3大会の参加者数 (単位:人) | [目標値] 1,707 [実績値] 1,563 〈達成率〉 91.6% | [目標値] 1,670 [実績値] 1,633 〈達成率〉 97.8% | [目標値] 1,651 [実績値] 1,636 〈達成率〉 99.1% | [目標値] 1,610 [実績値] 1,636 〈達成率〉 99.1% | A | A | 継続 (理由) 次代の鹿児島市を担う心豊かで元気あふれる「さつまっ子」を市民全体で育成するため、必要な事業である。 |
| 主催事業計画数と実施数 (単位:件) | [目標値] 44 [実績値] 42 〈達成率〉 95.5% | [目標値] 44 [実績値] 43 〈達成率〉 97.7% | [目標値] 43 [実績値] 41 〈達成率〉 95.3% | [目標値] 42 [実績値] 41 〈達成率〉 97.6% | 主催事業参加人数 (単位:人) | [目標値] 5,500 [実績値] 6,130 〈達成率〉 111.5% | [目標値] 5,500 [実績値] 5,720 〈達成率〉 104.0% | [目標値] 5,500 [実績値] 5,378 〈達成率〉 97.8% | [目標値] 5,500 [実績値] 5,378 〈達成率〉 97.8% | A | A | 継続 (理由) 野外活動や創作活動、農業収穫体験など、非日常的体験活動の機会を児童生徒及びその保護者等に提供する主催事業は、青少年健全育成上、大変有効であり、必要な事業である。 活動指標で100%を切っている理由は、天候不良(大雪、台風等)による開催中止である。 |
| 応募者数 (単位:人) | [目標値] 150 [実績値] 180 〈達成率〉 120.0% | [目標値] 150 [実績値] 192 〈達成率〉 128.0% | [目標値] 150 [実績値] 175 〈達成率〉 116.7% | [目標値] 150 [実績値] 175 〈達成率〉 116.7% | アンケート調査による満足度 (単位:%) | [目標値] 100 [実績値] 97 〈達成率〉 97.4% | [目標値] 100 [実績値] 0 〈達成率〉 0.0% | [目標値] 100 [実績値] 100 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 100 [実績値] 100 〈達成率〉 100.0% | A | A | 継続 (理由) アンケート結果より、9割以上の参加者が、満足、概ね満足と回答している事業である。異年齢での体験活動を通して、たくましい青少年の育成が図られているため、必要な事業である。 |
| 読み聞かせ等講師派遣回数 (単位:回) | [目標値] 27 [実績値] 27 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 27 [実績値] 32 〈達成率〉 118.5% | [目標値] 35 [実績値] 29 〈達成率〉 82.9% | [目標値] 35 [実績値] 29 〈達成率〉 82.9% | 読み聞かせ等参加者数 (単位:人) | [目標値] 1,700 [実績値] 2,143 〈達成率〉 126.1% | [目標値] 2,143 [実績値] 2,085 〈達成率〉 97.3% | [目標値] 2,143 [実績値] 1,949 〈達成率〉 90.9% | [目標値] 2,143 [実績値] 1,949 〈達成率〉 90.9% | A | A | 継続 (理由) 読み聞かせに適した本を紹介したり、読み聞かせの実演指導等により、子どもが主体的に読書活動に取り組むための環境づくりを推進するため、必要な事業である。 |
| 絵本の配付人数 (単位:人) | [目標値] 5,700 [実績値] 5,334 〈達成率〉 93.6% | [目標値] 5,700 [実績値] 5,617 〈達成率〉 98.5% | [目標値] 5,700 [実績値] 5,521 〈達成率〉 96.9% | [目標値] 5,700 [実績値] 5,521 〈達成率〉 96.9% | あかちゃんのためのおはなし会参加者数 (単位:人) | [目標値] 1,080 [実績値] 750 〈達成率〉 69.4% | [目標値] 1,080 [実績値] 967 〈達成率〉 89.5% | [目標値] 1,080 [実績値] 1,120 〈達成率〉 103.7% | [目標値] 1,120 [実績値] 1,120 〈達成率〉 100.0% | A | A | 継続 (理由) 家庭での読み聞かせを通じて赤ちゃんの言葉と心を育むとともに、家族のあたたかい心の交流を支援し、読書活動の推進のみならず、子育ての支援にも寄与するため、必要な事業である。 |
| 市教委主催学校図書館司書研修会の出席者数 (単位:人) | [目標値] 348 [実績値] 339 〈達成率〉 97.4% | [目標値] 464 [実績値] 461 〈達成率〉 99.4% | [目標値] 464 [実績値] 455 〈達成率〉 98.1% | [目標値] 464 [実績値] 455 〈達成率〉 98.1% | 1か月間の平均読書冊数(上段:小学校、下段:中学校) (単位:冊) | [目標値] 19 [実績値] 26 〈達成率〉 136.8% | [目標値] 25 [実績値] 25 〈達成率〉 100.0% | [目標値] 25 [実績値] 26 〈達成率〉 104.0% | [目標値] 26 [実績値] 28 〈達成率〉 111.5% | A | A | 継続 (理由) 学校図書館司書が、市立小・中学校の学校図書館の円滑な運営ができる。児童生徒の読書量増加等、読書活動の推進のため、必要な事業である。 |

5 教育行政評価会議の個別事業に対する主な意見

| 事業名 |
|--|
| 道徳教育の充実 (No.1) |
| <ul style="list-style-type: none">・道徳の教科化（「特別の教科 道徳」）に伴い、保護者や教職員の関心も高い事業であると思われる。今後も内容の充実に努めていただきたい。・道徳教育研究大会は、指導方法や内容等に関する先進的な研修の機会となっており、評価の内容・方法や、改善すべき事項等を保護者や地域にも広く啓発していく機会として充実していただきたい。 |
| 「こころの言の葉」コンクール事業 (No.2) |
| <ul style="list-style-type: none">・親子の気持ちを代弁してくれる作品集は皆が共感できる内容であり、FMでも放送されており、一人一人が大切な存在であることを書いた者も読んだ者も、また聞いた者にも伝わる素晴らしい事業である。・PTA、学校（授業）、地域でも広く活用していく方策を他課とも連携して検討してほしい。・単年度の成果はもとより、その累積による効果にも注目すべきであり、作品集の活用は大切であるが、作ること自体、あるいはその過程の価値にも注目したい。 |
| 「郷土の偉人に学ぶ鹿児島心」推進事業 (No.3) |
| <ul style="list-style-type: none">・現代の子どもたちが興味を持ちたくなるようなマンガ教材としての導入は効果的である。歴史を知るとともに遺跡などへ実際に行き、知識と体験が結び付けば、より深く学ぶことができる。・教材の活用について、学校や教職員によって温度差が生じないように、活用マニュアルにも力を入れてほしい。・「偉人」を教材として取り扱うときは、科学的に客観的に描くことが必要であり、時代の背景を踏まえた客観的な取り上げ方ができるよう作成委員会等の充実を期待したい。 |

事業名

人権教育推進事業 (No.5)

- ・人権教育を一般の方々を対象に積極的に推進している事業として意義が大きい。講演会や学習会についてはSNSなどでも告知し、人権は身近なものであるというイメージ作りに取り組み、多くの参加が得られるよう工夫を重ねていただきたい。
- ・「性的少数者」や「障害」、インターネットによる人権問題に代表される今日の重要課題にもより積極的に対応すべきである。

人権教育の推進事業 (No.6)

- ・「性的少数者」や「障害」に代表される今日の重要課題にも、より積極的かつ早急に対応すべきである。
- ・研修会で学んだことをいかに実践できるかが大事であり、学校生活の中での日常的な実践を期待したい。
- ・様々な人権課題を教職員がまずはしっかり学び、研修し、児童生徒に正しい認識と理解が広がるとともに、PTAなど保護者にも十分に浸透していくような広がりのある着実な人権教育を期待したい。
- ・児童生徒一人一人の自尊感情、自己肯定感の向上をめざした人権に関する授業(道徳、学活など)を計画・実践・評価していくカリキュラム・マネジメントにももっと力点を置いて着目してほしい。
- ・学校教育課が主体となって積極的な人権教育推進を実践しており、さらに推進してもらいたい。

生徒指導の充実 (No.7)

- ・今日の複雑化する生徒指導に関する問題対応は、一部の教職員に任せるのではなく学校全体の問題として、また家庭・地域とも協力して取り組んでいただきたい。
- ・ネットいじめに関しては、特に学校現場だけでは解決できない要素も多いことから、PTAや関係機関・団体と連携した取組を更に深化させていく必要がある。今後、民間団体や企業とのネットワーク化にコストをかけることも検討すべきである。

| 事業名 |
|---|
| 不登校児童生徒支援事業（No.8） |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 不登校児童生徒にとって適応指導教室は、貴重なセーフティネットとなっており、学校・家庭と連絡を取り合い、引き続き充実した活動を期待する。また、多様な形の不登校傾向の児童生徒をケースバイケースで支援していく態勢として、適応指導教室と各学校での支援態勢（保健室登校等）をよりよくリンクさせていくような取組も必要である。 ・ 相談を躊躇する保護者もいることに十分配慮し、保護者が気軽に相談できる環境づくりに努めてもらいたい。 |
| 臨床心理相談員活用事業（No.9） |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床心理相談員は、困難を抱える児童生徒・保護者にとって専門的指導を受けることができる貴重な存在であり、積極的な活用もなされ成果も上がっていることから、一層の充実を期待する。 ・ 人員等は、実態に合わせて柔軟に対応していくことも必要である。 |
| いじめ問題等調査委員会（No.12） |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 法や鹿児島市いじめ防止基本方針に基づき、今後も充実した調査・審議に努めていただきたい。 |
| 教育相談の充実（No.13） |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談員や市スクールカウンセラー、生活指導支援員など、様々な相談員体勢を確立している本事業は評価できる。 ・ 学校現場に求められている重要な事業である。相談員の学校への常駐や更なる資質向上など、充実に努めていただきたい。 ・ 災害・事件・事故など「緊急時」の心理支援に手厚い対応が必要である。 ・ 教育相談の全体像について、より多くの方々が分かるよう概略図等でしっかりと周知を図ってもらいたい。 |

| 事業名 |
|--|
| <p style="text-align: center;">学校保健活動の充実（No.18）</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・保健・健康は、学校生活の基本であり、輪番制で研修会場を受け持つことにより、より意識した計画的な学校保健活動が企画・運営されていくことに繋がり、地域、学校、児童、保護者意識も高まることから、有効な事業である。 ・11ブロックの区分けの規模の見直しや有効性の確認等も行いながら、事業をよりよく推進してほしい。 |
| <p style="text-align: center;">学校職員安全衛生管理事業（No.20）</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・教職員のオーバーワークが危惧されるなか、健康・安全維持のための環境整備は喫緊の課題であり、教職員のゆとりが子どもたちへのよりよい教育的関わりにつながることから、事業の充実に努めていただきたい。 ・今後の教職員の「働き方改革」の動向によっては、拡充が必要な局面も考えられ、「働き方改革」の観点から統括していく教育委員会組織のシステムも考える必要がある。 |
| <p style="text-align: center;">学校職員ストレスチェック事業（No.21）</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェックの目的や有用性を理解してもらえよう工夫しながら、今後も継続していただきたい。 |
| <p style="text-align: center;">学校給食活動の充実（No.22）</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・より充実した学校給食の実施のため、調査研究とその成果の公表・活用は、引き続きしっかり行っていただきたい。また、学校給食に起因するアナフィラキシーなど事故の発生事例については本事業を通して情報の共有と確認を図っていただきたい。 ・学校給食研究誌は非常に素晴らしい内容であり、多くの教職員、児童生徒、保護者に読んでもらうため、研修での活用など工夫が必要である。 |

| 事業名 |
|--|
| 子ども会育成事業 (No.23) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・地域全体で子どもを育てていくという鹿児島県の文化的土壌を形成する重要な事業である。子ども会の魅力ある活動の活性化のために、指導者研修の一層の充実を図っていただきたい。 ・様々なライフスタイルがあるなかで、保護者がその本来の目的や意図を理解できぬまま役を引き受けることを負担に感じている現状も一部にあるが、地域ごとの課題にも目を向けながら、充実させてほしい。 ・地域社会にも積極的にそのよさを広報していく努力をお願いしたい。また、子ども会への親の参加率向上のための工夫も必要である。 |
| 青少年問題協議会 (No.24) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・青少年の健全育成のために欠かすことのできない協議会であり、ネット社会の問題を視野に入れた積極的な対策等を学校・PTA・関係機関団体に発信するなど更なる充実を期待したい。 ・リーフレットについては配布だけでなく、学級活動やPTAの集まりなどで説明補足を行ってから配布するなど、有効に活用されるよう工夫していただきたい。 |
| 心豊かで元気あふれる「さつまっ子」育成市民会議 (No.32) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・市民総ぐるみでの活動であり、あいご会や子ども会と同様、かごしまの特色ある教育の一つであることから、今後も不易と流行を大切にしながらその充実を図っていただきたい。 ・あいご会・子ども会活動との関連事業としての位置づけと、各学校の参画意識の高揚を図っていくための具体策等をワークショップ型の研修等で導き出していくなどの工夫した研修会の実施を期待したい。また、研修会等の開催周知、参加率向上の工夫も必要である。 ・関連事業がいくつか見られるので、それらの事業の構造化・体系化が必要である。 |

| 事業名 |
|--|
| 少年自然の家主催事業 (No.33) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・都市生活において乏しくなっている体験活動はますます求められており、学校、子ども会などの社会教育団体、NPO等とも連携・協力した協働事業の実施や出前講座や出張イベントなど、内容の充実を図りながら、継続していただきたい。 ・参加者の満足度はもちろんだが、リピート率に着目したマネジメントを大いに期待したい。 |
| 図書館子どもの読書活動支援事業 (No.35) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせやブックトークへの市民ニーズは高い。時には子どもから大人へ読み聞かせをするなどの主体的な活動も行いながら、さらに充実していただきたい。 ・事業を拡充していくためにも、幼稚園、保育所、学校はもちろん、あいご会、子ども会、PTAとの積極的な連携を図っていただきたい。また、申請方法の更なる周知も必要である。 |
| 学校図書館運営事業 (No.37) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館司書の全校配置は、児童生徒の読書量としてその成果が十分に表れている。また、図書館が子どもにとっての「居場所」になるなど間接的な成果も生んでいる。 ・本に親しむ子どもがさらに増加するよう、司書の育成・研修に努めていただきたい。 |

Ⅲ 参考資料

教育委員会活動の自己点検・評価実施要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくため、教育委員会が事務の管理及び執行の状況について自ら実施する点検及び評価に関し、必要な事項を定めるものとする。

(評価の基本的なあり方)

第2条 教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、的確にその施策効果を把握し、その目的又は目標に照らして、必要性、有効性、効率性、公平性の観点その他当該施策の特性に応じて必要な観点から点検及び評価を行い、その評価の結果を当該施策に適切に反映させるものとする。

2 教育委員会は、前項の規定に基づく点検及び評価の実施に当たっては、客観的な実施の確保を図るため、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用する。

3 前項に規定する学識経験を有する者の知見の活用を図るため、教育行政評価会議を設置するものとし、必要な事項は別に定める。

(評価の基本的な事項)

第3条 教育委員会は、点検及び評価の実施に当たり、次に掲げる事項を協議し決定する。

- (1) 点検及び評価の対象に関すること。
- (2) 点検及び評価の実施方法に関すること。
- (3) 点検及び評価の対応方針等の決定（以下「結果」という。）に関すること。
- (4) 点検及び評価の結果の施策への反映に関すること。
- (5) 点検及び評価の結果の公表に関すること。
- (6) その他点検及び評価の実施に関し必要なこと。

(報告書の作成及び公表)

第4条 教育委員会は、点検及び評価を行ったときは、その結果に関する報告書を作成するものとする。

2 教育委員会は、前項の規定により作成した報告書を市議会に提出するとともに、公表するものとする。

(市民の意見及びその反映等)

第5条 教育委員会は、公表した報告書について市民から意見があった場合には、施策又は点検及び評価に適切に反映させるように努めるものとする。

(点検及び評価の改善の検討)

第6条 教育委員会は、毎年度、点検及び評価のあり方について検証を行い、その課題を把握し、鹿児島市の行政評価の動向も参考としながら、その改善について検討を行う。

(委任)

第7条 この要綱に規定するもののほか、点検及び評価の実施に関し必要な事項は、別に定める。

付 則

この要綱は、平成20年5月22日から施行する。

付 則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

教育行政評価会議設置要領

(趣旨)

第1条 教育委員会活動の自己点検・評価実施要綱(平成20年5月22日制定)第2条第3項に規定する教育行政評価会議(以下「評価会議」という。)に関し、必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 評価会議は、教育委員会の求めに応じて、次の各号に掲げる事項について意見を述べるものとする。

- (1) 教育委員会の点検及び評価の方法に関すること。
- (2) 教育委員会の担当課が実施した点検及び評価の一次評価に関すること。
- (3) その他教育委員会の点検及び評価に関し必要と認めること。

(組織)

第3条 評価会議は、5名以内の委員で組織する。

- 2 委員は、教育に関し識見を有する者のうちから、教育委員会が委嘱する。
- 3 評価会議に会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年以内とする。ただし、委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 委員は、再任されることができる。

(会長の職務)

第5条 会長は、評価会議の会務を総理し、評価会議を代表する。

- 2 会長が欠けたとき、又は会長に事故があるときは、あらかじめ会長が指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 会議は、会長が招集する。

- 2 会議は、委員の過半数以上の出席がなければ開くことができない。
- 3 会長は、会議の議長となり、議事を整理する。
- 4 会長は、必要があると認めたときは、関係職員その他会長が適当と認める者を会議に出席させ、関係事項について説明させ、又は意見を述べさせることができる。

(庶務)

第7条 評価会議の庶務は、教育委員会事務局管理部総務課において処理する。

(委任)

第8条 この要領に規定するもののほか、評価会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。

付 則

この要領は、平成20年5月22日から施行する。

付 則

この要領は、平成26年6月3日から施行する。